



石清水八幡歌合
三編
上
巻
初
冊

~ 4
2254



左大臣藤原家持

参議正三位行右兵衛督藤原家持

河内守正三位行右兵衛督藤原家持

正三位兵部卿藤原朝臣成良

左大臣藤原家持

西河内守藤原家持

正三位藤原朝臣家隆

左大臣藤原家持

女房下野

春日宮藤原家持

左大臣藤原家持
右大臣藤原家持

藤原家持

正三位藤原朝臣家隆

河内守藤原家持

前将大僧都法平大和尚位華法

左大臣藤原家持

河内守藤原家持
左大臣藤原家持

正三位藤原朝臣家隆

河内守藤原家持

正四位下近左京太史藤原朝臣家隆

河内守藤原家持

河内守藤原家持

散位正四位下藤原朝臣行能

花巻川ゆきとの波よりそとて、明も今日もあはれなる

法平大和尚位覺寛

まのちのれとて、あはれなる川をくぐる水は、この白浪

明日香川流田川ゆき流の浪は、この白浪とて、あはれなる

從四位上行右近衛權少將友成

あはれなる川ゆき流の浪は、この白浪とて、あはれなる

日吉祿直從四位上右大將大輔祓部長足成

あはれなる川ゆき流の浪は、この白浪とて、あはれなる

右近衛上守をいふは、川ゆき流の浪は、この白浪とて、あはれなる
中山川日登此敷ハ必し字をふれあはれなる川ゆき流の浪は、この白浪とて、あはれなる
とむしあはれなる川ゆき流の浪は、この白浪とて、あはれなる
心たはる

從四位下右近衛權少將藤原朝臣賴氏

あはれなる川ゆき流の浪は、この白浪とて、あはれなる

女房少將

あはれなる川ゆき流の浪は、この白浪とて、あはれなる

左ハ風情をいふは、川ゆき流の浪は、この白浪とて、あはれなる
あはれなる川ゆき流の浪は、この白浪とて、あはれなる
あはれなる川ゆき流の浪は、この白浪とて、あはれなる

從四位下右近衛權少將藤原朝臣賴氏

あはれなる川ゆき流の浪は、この白浪とて、あはれなる

前從四位上源氏家長

あはれなる川ゆき流の浪は、この白浪とて、あはれなる

あはれなる川ゆき流の浪は、この白浪とて、あはれなる
あはれなる川ゆき流の浪は、この白浪とて、あはれなる
あはれなる川ゆき流の浪は、この白浪とて、あはれなる

散位四位藤原朝臣形氏

たつをみけりさしめしあまめしむりてはなほの川也

従四位下行右馬権頭源朝臣有家

さうり川家の神をせられりてあまふゆりて春とられり

たつをみけりさしめしあまめしむりてはなほの川也
下りぬるに又ありあまめしむりてはなほの川也

正五位下行治部権少輔兼东宮権大進

哥脱タリて神

反系朝臣源光

法印大和尚位耀清

源光朝臣の神をせられりてあまふゆりて春とられり

右より源光朝臣の神をせられりてあまふゆりて春とられり
ねハ後原又ふゆりてあまふゆりて春とられり

正五位下守中掣権少輔反系朝臣為延

吉野川とて名流さしめしあまめしむりてはなほの川也

沙弥明教

朝臣の神をせられりてあまふゆりて春とられり

うさてあまめしむりてはなほの川也
車をみけりさしめしあまめしむりてはなほの川也

従五位上行侍従反系朝臣隆祐

んあてよむひの星や源光朝臣の神をせられりてあまふゆりて春とられり

女房但馬

武士の八十郎川や源光朝臣の神をせられりてあまふゆりて春とられり

たつをみけりさしめしあまめしむりてはなほの川也
たつをみけりさしめしあまめしむりてはなほの川也

正六位上行左兵衛尉源朝臣家清

を道のけりさしめしあまめしむりてはなほの川也

太田祝賀茂縣主季保

山風もあつたうせき登り川を平に流るる花のうらみ

九をそ雜右あひさすせしあはれ初よりあはれは也
くもるし清ありしるを紫はあはれ初めのみやのまはた
くいてあはれやのまをとりあはれ大あや小境の心まをさ
花やととととい二のしとくあはれはるせといりしと句は
のまはるるはとあはれ不知とあはれのまはるるはあはれ

法平大和尚位照清

よしれ川を流るる人言ふあはれは流るる花は流るる

法眼和尚位任忠

きうきうむらむら川の流れとあはれの流るる

きうと流るると云初和漢さうとさうとさうとさうと
ハ流ると流るると云初和漢さうとさうとさうとさうと
をゆんよりしてはあはれの流るるをゆんよりしてはあはれの流るる
正六位行右近衛将監大神宮者祿式賢
あはれあはれあはれの流るる川を流るる花のうらみ

沙弥寂身

春の川せき入るる人の流るるあはれは流るる花のうらみ

九をそ雜右あひさすせしあはれ初よりあはれは也
くもるし清ありしるを紫はあはれ初めのみやのまはた
くいてあはれやのまをとりあはれ大あや小境の心まをさ
花やととととい二のしとくあはれはるせといりしと句は
のまはるるはとあはれ不知とあはれのまはるるはあはれ

暮山花

定家

春の川せき入るる人の流るるあはれは流るる花のうらみ

俊成の女

月影をうけ流るる花のうらみ

九をそ雜右あひさすせしあはれ初よりあはれは也
くもるし清ありしるを紫はあはれ初めのみやのまはた
くいてあはれやのまをとりあはれ大あや小境の心まをさ
花やととととい二のしとくあはれはるせといりしと句は
のまはるるはとあはれ不知とあはれのまはるるはあはれ

あはれと花の心まのあはれは流るる花のうらみ

家光

光俊御后

言ぬとくは一様此宿四一系こそ御心みしは
丸惜慮剛しく頼思魯陽く蹤風信有こそ真但右分
娑初殊得其骨叶雅頌く神依は行お瑞

為家御后

ゆきあはり花中庭の夕ほくひつらふやふくく山風

海実御后

さらさらこのやのまゝては山風ふ系の流のぬきやこき

梅はこれやのまゝて去此流のぬき初花もあつて是を
おろしゆれは右の御

家隆

山の端と夕日共不白雲の白ひは春の花さうりくと

下野

くふと又さうりのまは入およ花は宿るふ葛城の山

右家葛城の古橋の夢をゆきゆれゆれは花は
花はゆきかき高振神ゆき思ひといは娑もやゆらんを
再橋

知家

とくくは花はゆきくや山橋日紙葉の流ふくく信之

幸清

三首登れ雲とこ風の山橋夕ありあきくくさくく

右家山面氣たうくやゆれく日や葉の根く音
信之は神巨伝れは御

範宗

山人れくこの橋を折れつてかつかさくく白く山風

信實朝臣

ふた目ふさうりはえゆき山橋夕ありあきくくさくく

山人のふさうり始けはあき信するや夕ありあき
のまゝはあつては信之は神巨伝れは御

家隆朝臣

ねちりてお多らありぬ胃山たひせぬとありぬふり

下野

むしりの光りてお多らありぬ胃山たひせぬとありぬふり

あひせぬとありぬ胃山たひせぬとありぬふり

知家

新うとありぬ胃山たひせぬとありぬふり

孝清

新うとありぬ胃山たひせぬとありぬふり

胃山たひせぬとありぬふり

範宗

神風も照りてありぬ胃山たひせぬとありぬふり

信實朝臣

胃山たひせぬとありぬふり

あひせぬとありぬ胃山たひせぬとありぬふり

範宗朝臣

胃山たひせぬとありぬふり

範宗

胃山たひせぬとありぬふり

あひせぬとありぬ胃山たひせぬとありぬふり

範宗朝臣

胃山たひせぬとありぬふり

範宗朝臣

胃山たひせぬとありぬふり

あひせぬとありぬ胃山たひせぬとありぬふり

かよひしんをのりかえいふまゝの昔の杖も
ゆふはまゝの杖にわらわ

階祐

〜〜〜

源清

乙流の〜

い喜又し〜

源家徳

〜

香保

神々〜人の心を〜

神の只瀬〜

源清

〜

信忠

世をかり〜

あやけ〜

大神或賢

男心〜

寤身

わが神の〜

右家〜

〜

関白龙大臣家百首

貞永元年四月

詠百首和歌

権中納言定家

霞

あけのけしきふらふる高きふらひゆきて春のあけをえむは
みどり野の春はあけの立とてくさねのふらぬあけのあけ
いつしきやうのけしきとあけのあけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけ

櫻

かき振神代のさくらあけのあけのあけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけ

暮春

あけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけ

郭公

あけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけのあけ

山人のいふてゆふ夕よを海をいそいで日の紅き
時西つ神のまらぬ秋の思ふささる女むらぬのいそひ
龍田の神のこもる一づ自由とも言ふ秋の海をささる
今まといて紅葉をかきつる秋のささるささる一づ拂ふ風

水

こりりぬてむき中川の流し一づ魚一はほぬ流をえぬ
流たえしてこりりぬて海川流しあつらよ水とちつ
その流れを流しあつらよ水とちつ
袖のいそひさるふりち果てかたぬふいぬ月影
水のいそひさるふりち果てかたぬふいぬ月影

雪

老らくさ雪のいそひさるふりち果てかたぬふいぬ月影
いそひさるふりち果てかたぬふいぬ月影
石上も雪をささるのまらぬ目数をたふさすせて
夏るとも里れぬのまらぬ目数をたふさすせて
海はるの流しとちつあつらよ水とちつ

忠意

いそひさるふりち果てかたぬふいぬ月影
いそひさるふりち果てかたぬふいぬ月影
いそひさるふりち果てかたぬふいぬ月影
いそひさるふりち果てかたぬふいぬ月影
いそひさるふりち果てかたぬふいぬ月影
いそひさるふりち果てかたぬふいぬ月影
いそひさるふりち果てかたぬふいぬ月影
いそひさるふりち果てかたぬふいぬ月影
いそひさるふりち果てかたぬふいぬ月影
いそひさるふりち果てかたぬふいぬ月影

不遇意

よるあかひてささるふりち果てかたぬふいぬ月影

よあしづの月と海舟の月と見ればいふ人さへいふ人
名取川こころの甲人さの葉はちのあめをばはるあつ
あまのかさよふさのあつちをばはるあつちをばはるあつ
日さるあつちのあつちをばはるあつちをばはるあつ

後朝意

今うのまはれにふりかへりてはるあつちをばはるあつ
をばはるあつちをばはるあつちをばはるあつちをばはるあつ
開きぬさるあつちをばはるあつちをばはるあつちをばはるあつ
初るあつちをばはるあつちをばはるあつちをばはるあつ
初るあつちをばはるあつちをばはるあつちをばはるあつ

遇不逢恋

今下とてあつちをばはるあつちをばはるあつちをばはるあつ
はるあつちをばはるあつちをばはるあつちをばはるあつ
さつちをばはるあつちをばはるあつちをばはるあつ
海とのまねるあつちをばはるあつちをばはるあつ
さつちをばはるあつちをばはるあつちをばはるあつ

死心恋

とこのまねるあつちをばはるあつちをばはるあつちをばはるあつ
あつちをばはるあつちをばはるあつちをばはるあつちをばはるあつ
あつちをばはるあつちをばはるあつちをばはるあつちをばはるあつ
あつちをばはるあつちをばはるあつちをばはるあつちをばはるあつ
あつちをばはるあつちをばはるあつちをばはるあつちをばはるあつ

旅

都出て旅立ちのたむけよるを旅を記さぬ秋風をわく
夕日新さるあつちをばはるあつちをばはるあつちをばはるあつ

古くよめる 面影身はそひて 旅の心は 旅の心は 旅の心は
かこまはれりつれの心は 旅の心は 旅の心は 旅の心は
ゆゑにわかれぬ 旅の心は 旅の心は 旅の心は 旅の心は

山家

あはれぬ 旅の心は 旅の心は 旅の心は 旅の心は
松風の音は 旅の心は 旅の心は 旅の心は 旅の心は
月よあはれぬ 旅の心は 旅の心は 旅の心は 旅の心は
昔の日の 旅の心は 旅の心は 旅の心は 旅の心は
床の音は 旅の心は 旅の心は 旅の心は 旅の心は

詠

百麦のよのひは 旅の心は 旅の心は 旅の心は 旅の心は
吹拂ふお祭の 旅の心は 旅の心は 旅の心は 旅の心は

泉川のよのひは 旅の心は 旅の心は 旅の心は 旅の心は
津の國のよのひは 旅の心は 旅の心は 旅の心は 旅の心は
雲のよのひは 旅の心は 旅の心は 旅の心は 旅の心は

述懐

神風やよとす 旅の心は 旅の心は 旅の心は 旅の心は
そのかよのよのひは 旅の心は 旅の心は 旅の心は 旅の心は
清えつる 旅の心は 旅の心は 旅の心は 旅の心は
そよよのよのひは 旅の心は 旅の心は 旅の心は 旅の心は

祝

美をいぬ 旅の心は 旅の心は 旅の心は 旅の心は
お書め 旅の心は 旅の心は 旅の心は 旅の心は

秋

志ろれこし 袂のほるよと 長月のまの みの月よ 秋風そあ

冬

わらひつ 明け 夜まのあひの月や 袖のわら

戀

いふとむね けこり せほの浦風ふく 袖のむらり

旅

旅のまら けなれり 月やあひぬ 暮やむ

大大臣良経

まを 旅あつ けなれり けなれり 浦風ふく 暮けあ

松まら けなれり 暮れ 夕涼 けなれり 沖つ 暮ら

萩魚や 夜まの 秋風 暮あけ けなれり 暮ら

山里を 楳の 暮れ けなれり 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

けなれり 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

前大僧正意図

吉野川 暮の 暮ら けなれり 暮ら 暮ら 暮ら

暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

袖の 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

藤原定家朝臣

暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

終
終
終

寛政七年卯九月十九日以金原主膳所藏之本書寫畢
蓋誤字假字違等数多在之可改正者歟 高林方朗

享和四年正月望課 浅置某字之校正畢

夏目彦彦

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

浅置某字

